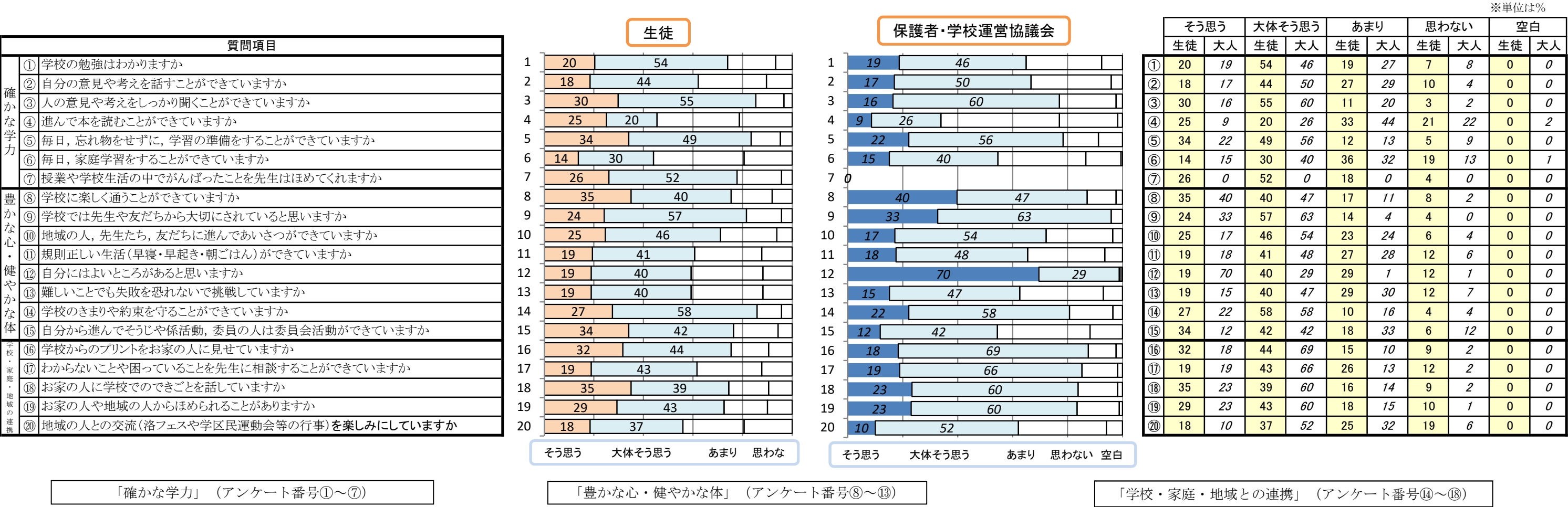


○目指す子ども像(ブロック共通) 夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成
重点目標(児童生徒の共通する課題より) (1)コミュニケーション能力を育成するための“言語活動”を充実する。～つながる・深める・伝え合う～ (2)児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○洛西中学校めざす生徒像 ①「学ぶ楽しさ」と「わかる喜び」を実感し、夢や希望に向けて主体的に学習に取り組む生徒〈知〉 ②自分や仲間の良さや違いを認め尊重し、支え高め合える生徒〈徳〉
③ 命を大切にし、健康で安全な生活を心がけ、明るくいいきと生活できる生徒〈体〉



今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 基礎的・基本的な知識・技能の定着
アンケート①「学校の勉強はわかりますか」については、「そう思う」が20%、「だいたいそう思う」が54%で、74%の生徒が「概ねわかる」と回答しています。この結果は、昨年度の同時期より8ポイント減少しました。授業において、知的好奇心を呼び起こすような導入、考えたくなるような発問の工夫などを通して、「わかった」「できた」「おもしろい」の喜びを体験させることができるように、今後も授業改善に努めていきます。また、既習の学習内容との関連付けを意識的に行い、繰り返し学習する中で、基礎的・基本的な知識・技能の定着を図っていきます。

② 思考力・判断力・表現力の向上
アンケート③「人の意見や考えをしっかりと聞くことができていますか」については、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が85%で、思考力や判断力の土台となる「聞く」ことについては、安定してできるようになっています。しかし、アンケート④「進んで本を読むことができていますか」については、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が45%で、思考力のもととなる「読む」ことについて課題があります。また、アンケート②「自分の意見や考えを話すことができていますか」についても、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計が62%で、思考力・判断力・表現力に課題があると言えます。今後は読むこと、自分の考えを書くことを通して、論理的思考を高め、自信を持って自分の意見や考えを話すことができるように、取り組んでいきたいと思います。

③ 家庭学習の習慣化
アンケート⑥「毎日、家庭学習をすることができていますか」については、「そう思う」が14%、「だいたいそう思う」が30%でした。半数以上の56%が「あまりしていない」という厳しい結果が出ています。タブレット端末のミライシードなどを有効に活用して、自学自習の習慣化を図っていききたいと思います。また、自分の夢や目標を達成するために、家庭学習に取り組むという意識を向上させられるように、働きかけを強化していきます。

今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 自己肯定感や自己有用感の育成
アンケート⑧「学校に楽しく通うことができていますか」については、「そう思う」が35%、「だいたいそう思う」が40%で、75%の生徒が「概ね楽しく登校できている」と回答しています。しかし、昨年度の同時期より「そう思う」が11ポイント減少しました。コロナ禍のため、学校祭体育の部や文化の部の縮小や部活動の停止を余儀なくされる等、生徒たちの楽しみにしている教育活動が十分に行えなかったことが、一つの要因であると考えています。しかし、制約がある中でも生徒たちは、よく頑張って教育活動に取り組んでいます。今後も常に寄り添いながら、仲間づくりを推進し、誰もが居心地の良い、通いたくなる学校を目指して、適切な支援を行っていきます。

アンケート⑨「学校では先生や友だちから大切にされていると思いますか」については、「そう思う」が24%、「だいたいそう思う」が57%で、81%の生徒が「概ねそう思う」と回答しています。しかし、アンケート⑫「自分にはよいところがあると思いますか」について、「そう思う」「だいたいそう思う」の合計は59%となり、昨年度の同時期より12ポイント減少しました。感染症対策を徹底する中で、さらに生徒が活躍できる場面を意図的・計画的につくり、小さな成功体験を積み重ねられるようにし、生徒の自己肯定感や自己有用感を高めていきたいと思います。

② 基本的生活習慣の確立
アンケート⑪「規則正しい生活(早寝・早起き・朝ごはん)ができていますか」については、約4割の生徒が「あまりできていない」と回答しています。規則正しい生活のリズムは、体調管理に結びついています。中学生の時期は、体の成長が著しい時期でもあるので、バランスの良い食事を定まった時間にとることが大切であることを、食育通信などを活用して、生徒・保護者に伝えていきます。また、脳を活性化させ学習効果を高めるためにも、早寝・早起きを励行し、適切な睡眠時間を確保できるように働きかけていきます。

今回のアンケート結果から見てきたことと、これから意識的に取り組んでいくことを、以下に記載します。

① 家庭・地域との連携
アンケート⑯「学校からのプリントをお家の人に見せていますか」については、「そう思う」が32%、「だいたいそう思う」が44%で、76%の生徒が概ね学校からのプリントを見せています。残り24%の生徒もきちんと見せられるように、働きかけを強化していきます。また、PTAメールやホームページも、適宜、有効に活用していきます。
アンケート⑱「お家の人に学校でのできごとを話していますか」⑲「お家の人や地域の人からほめられることがありますか」については、74%の生徒が「話している・だいたい話している」と答え、72%の生徒が「概ねほめられることがある」と回答しています。親子のコミュニケーションは、子どもたちの活力になります。自主的なお手伝い等、子どもの適切な判断に基づく行動があった時に、時を逃さず、ほめてあげることが、自尊感情を高めることにつながります。思春期の真只中にある生徒と家庭・地域・学校の大人とのつながりを、より確かなものとするを通して、生徒の健やかな成長に結びつけていきたいと考えています。

アンケート⑳「地域の人との交流(洛フェスや学区民運動会等の行事)を楽しみにしていますか」については、「そう思う」が18%、「だいたいそう思う」が37%でした。地域社会につながり、貢献できる人材になってもらうためにも、地域の人たちとのふれ合いの場である地域行事を大切にし、周囲の大人への感謝の気持ちを育んでいきたいと思います。そのことが、地域に貢献できる人材の育成につながっていくと考えています。

② あいさつの習慣化
アンケート⑩「地域の人、先生たち、友だちに進んであいさつができていますか」については、71%の生徒が「概ねしている」と回答しています。あいさつは、人と人のコミュニケーションの入り口の役割を果たします。今後ももしっかりできるように働きかけていきます。